



と やま 輝く!!富(む)山の仕事人!!

川上～川下まで、森林・木材に関わる様々な分野で頑張る人を紹介します。



新川森林組合 森林作業員 かきもと こういち 柿本 弘一さん

今回ご紹介する方は、新川森林組合 森林作業員の柿本 弘一さん（54歳）です。魚津市東城地内の無花粉スギの植栽現場でお話を伺いました。

1 就業のきっかけ

柿本さんは、緊急雇用事業で植栽作業に従事したことがきっかけで、平成24年に新川森林組合に就業されました。それまでは、半導体関係の製造業や外食産業、木工



柿本 弘一さん

業などの様々な業種を経験されましたが、山の中で1日働いた成果を自分の目で見てははっきりと実感できるうえ、日没までには作業を終えるので残業がない(!)—という森林作業員の仕事に魅力を感じ、就業を決めたそうです。

2 現在の業務について

現在は、新川森林組合（本所）の所管エリアである滑川市・魚津市・旧黒部市で作業に従事しています。ハーベスタやフォワーダの操作もでき、植栽・下刈り・雪起しから枝打ち・伐採まで何でもこなせる作業員として汗を流す毎日です。

森林作業員としての仕事については、「他の仕事とは時間のスパンが違う」と感じているそうです。「いま植えた苗木がどう育つか。自分の作業の結果がどうなるか。それが正解かどうかは、50年以上経ってみないとわからない。1日単位で利益を追求する『デイトレーダー』とは

対照的だ。目先の利益にあくせくせずに、目の前の作業に真剣に向き合う。この感覚が面白い。心地よい『優越感』のようなものを感じる。」とのこと。このお話を伺い、森林・林業との向き合い方についてあらためて考えさせられました。



植栽前に等間隔で割竹を設置

3 冬期のお休みの過ごし方

柿本さんの現在の就業形態は、春から秋にかけて働き、冬の約2ヶ月間はお休みする—というもの。この冬のお休みを利用して、5年前から「車中泊」での長期の旅行をするようになり、すでに沖縄県と北海道以外の都府県をすべて廻ったそうです。

「いまの働き方だから、日本でも欧米並みのバカンスが楽しめる。今日だって、この2ヶ月の休みのために働いている。」と語った柿本さん。なんと15泊16日の旅行をしたこともあるとのこと。すごいですね!

山の仕事人でもあり、全国各地を巡る旅人でもある柿本さん。今後も引き続きご活躍されますよう、ご祈念申し上げます。

文責 新川農林振興センター 林政・普及班 打尾